

### 3 最近のナシ品種の動向

#### はじめに

青ナシの代表的品種である「二十世紀」は黒斑病に極めて弱く、黒斑病回避のために多くの労力が費やされてきた。このため黒斑病に強く「二十世紀」のように優れた果実品質を持つ品種の開発が望まれていた。近年、農林水産省果樹試験場（現、独立行政法人農業技術研究機構果樹研究所）や鳥取大学園芸学研究室で相次いで自家結実性を持つ黒斑病耐病性品種が育成され注目されている。

また、「幸水」、「豊水」に代表される赤ナシでは「豊水」の後に優れた品種があまりなかったが、農林水産省果樹試験場で近年2品種が育成された。

これらのことから当センターでは、新たに育成されたこれらの品種の特性について調査しており、現在明らかになっている点を紹介する。

#### 内容

##### 1 おさゴールド

鳥取県と農林水産省の共同開発により育成された青ナシである。自家結実性があるので人工交配が不要で黒斑病耐病性の品種であり、1997年に命名登録された。

収穫期、品質や外観は「二十世紀」とほぼ同じで、果実の大きさは300～350g、糖度は11程度である。結実が優れるため、大玉づくりには摘らいや早期摘果が重要となる。

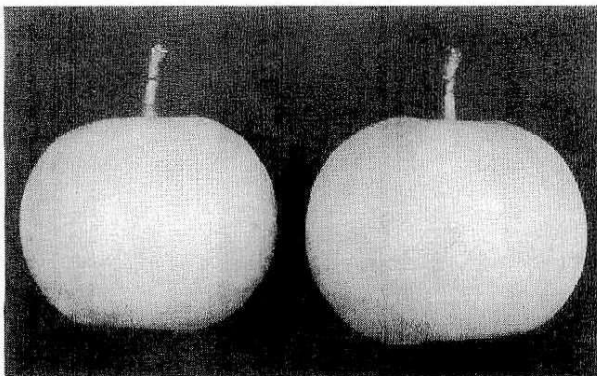


図1 黒斑病抵抗性で人工交配不要の「瑞秋」  
(写真：鳥取大学園芸学研究室提供)

##### 2 瑞秋（ずいしゅう）

鳥取大学園芸学研究室により「おさ二十世紀」の自家受粉で育成された青ナシである。黒斑病抵抗性でありかつ自家結実性である。「二十世紀」と比べ、成熟に伴う果皮の地色の抜けが遅く、果肉先熟の傾向である。収穫時期は「二十世紀」と同時期かやや早く、9月上旬である。短果枝の着生や維持は容易である。

##### 3 あきつき

農林水産省果樹試験場が育成した赤ナシで、1998年に命名登録された。果重は450～500g程度と大玉で玉揃いが良い。また、果汁の糖度は12～13度と高く食味も優れる。収穫時期は「豊水」と「新高」の間で、9月下旬頃である。芯腐れやみつ症の発生は少なく、日持ちは2週間程度である。腋花芽の着生が少ないため、夏季の誘引が必要である。

##### 4 王秋（おうしゅう）

農林水産省果樹試験場が育成した赤ナシで、2000年に命名登録された。この品種の特徴は果形で、楕円形～倒卵形と日本梨としては珍しい。収穫時期は「新興」の後で10月中下旬頃である。果重は650g程度と大果で、果肉は多汁で軟らかく、糖度は12～13度と高い。これまでの晩生ナシ品種にはない美味しさをもつ。日持ちは30日以上である。

松浦 克彦（北部農技・農業部）

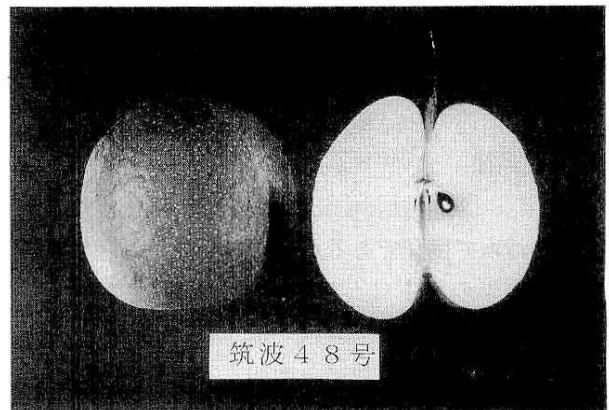


図2 食味の優れた晩生ナシ「王秋」  
(旧系統名：筑波48号)